

日 時	令和5年11月27日 10:00~11:30
場 所	世羅町役場本庁舎2階 第2会議室
次 第	1, 開会 2, 委員の紹介 3, 部会長の互選 4, 議事 議題1: 世羅町立地適正化計画について 議題2: コンパクト・プラス・ネットワーク型都市構造に向けた現状及び課題について



## 1. 開会

開会に当たり、事務局あいさつに続き、町長が挨拶を行った。

(町長あいさつ)

皆様には、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。立地適正化計画の流れについては、皆様ご承知と思いますが、現在、世羅町において様々な取組みを行ってはいるものの、少子高齢化の中、他の市町同様、かなり人口減少が進んでおり、1万5千を切ると、あっという間に1万4千、3千と減少するのではないかと危惧している。今後においては、ベッドタウン化というか、世羅町は都市部からやや離れているが、住むには良いところであり、公共交通の動向としっかりコミットしながら、通える場所であり、遊びに来ていただける場所でもあり、国道432ができたことによって商業施設も集積してきた。ただ、これだけで終わってはいけない。うるおいが全地域にもたらされる仕組みづくりが必要であると考えている。

どうか、皆様のご意見をしっかりといただいて、コンパクトシティということが間違った方向で伝わらないように、委員の皆様にはそれぞれのお立場、また専門分野から、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。今日はありがとうございます。

## 2. 委員の紹介

事務局が、委員の所属及び氏名を読み上げ、紹介した。

その後、委員9名の内、7名が出席であり、過半数の出席であることから、規定により本日の会議が成立したことを伝えた。

## 3. 部会長の互選

山下委員より、立地適正化計画に精通し、他都市の取組等にも詳しいとの理由で渡邊委員が推薦され、一同異議なく、渡邊委員が部会長に選出された。

## 4. 議事

渡邊部会長の挨拶に続き、議事に入った。

【議題 1】世羅町立地適正化計画について

事務局から、資料により説明した。

(渡邊部会長)

- ・専門部会の進め方について、全体で4回、今年度2回開催とのことであるが、今年度は基本的な方針と基準を決めて、来年度に具体的なエリアを決めるという認識でよいか。

(事務局)

- ・はい。

(山下委員)

- ・中心拠点について、都市計画の目玉である国道432バイパスが都市計画道路として整備され、この実現によって沿道に商業施設が立地したことなど、町全体を考えると非常に大きな成果もあったが、反面、旧市街地の商業機能が疲弊した。今高野山や旧道沿いの商店などは衰退の一途である。旧市街地をどう有効利用するかがポイントだと思っている。尾道市など、他都市では古い街並みを活かして賑わいを取り戻している。今あるものを使いながら、将来に向けて発展する方向を見出せたら、いいものができるんじゃないかと考えている。

(實川委員)

- ・ご承知のとおり、公共交通機関は全国的に運転手不足の状況である。世羅町ではデマンドタクシーやくるりん号(まちなか循環タクシー)の運行を行っているが、とてもこれ以上の対応ができない状況で、事業者としては大変困っている。人手不足と稼働率の低さが問題である。

(渡邊部会長)

- ・資料の10ページにあるとおり、コンパクト・プラス・ネットワーク推進のためには、いろいろな部署が関わりながら、公共交通についても、おそらく同じタイミングで検討が進んでいくと思うので、本部会で考え方を提案し、公共交通の方に対して、事務局から要望を出していただければと思う。

(玉浦委員)

- ・先ほどの意見にもあったが、旧市街地の活性化が必要である。現状では有効利用とは言えないが、住宅として利用されている。旧市街地はバイパスに大規模店舗が立地したことにより集客力がなくなった。近年は、今高野山などもあるため人も来るようになってきた。商工会としても、尾道のように歴史的な街並みを活かしたいと考えてはいるが、具体的な対策が出てこない。
- ・その中で、世羅町商工会は、創業支援や伴走型支援などの支援を実施しており、近年商工会の会員数も増えている。商店街に新たに店舗を開業する事例はまだ出てこないが、このような制度を活用して、空き店舗対策や商店街の活性化などを誘導していくという取り組みを、この会議の中で考えていければよい。
- ・世羅町は駅伝が有名で、走っている人が多い。また、健康のために歩いている人も多いので、健康など、世羅町らしさを出していければよいと感じている。

(久保委員)

- ・資料11ページにも記載があるが、中心部へという方向は良いし、私も若ければそういった便利な所に住みたいと思うだろうが、中心部と周辺部とをどうつなぐかが問題である。周辺部をどう救っていくのか、中心部だけが良くなるのではなく、双方が良くなる計画ということが大切と思う。

(渡邊部会長)

- ・公共交通については、別途計画を策定していると聞いている。

- ・今回はあくまでもコンパクト・プラス・ネットワークが中心だが、皆さんの意見を聴くとそれだけでは収まりそうにないと思う。世羅町では、立地適正化計画の中で小さな拠点等も記載しようとしている。これは他都市にはない例であり、冒頭、町長も言われたように、どうやって持続可能なまちにするのか、立地適正化計画の世羅版をどう作っていくのかということが大切だと思う。

(實川委員)

- ・旧市街地は、住宅は整備されているが、空き店舗などには倒壊の危険がある建物もある。これを何とかしなければならぬが、小さい建物でも建築確認が必要であり、手間も費用もかかる。山間部でも同様であるが、そのような手続きをしなくて済むように、都市計画区域から外してもらえないか。

(渡邊部会長)

- ・少し都市計画のあり方も考える必要があるかもしれないなというご意見をいただいた。

(事務局)

- ・今、皆さんからいただいた意見にも関連するので、本日欠席の委員から事前に提出された意見を紹介させていただく。

#### ■上羽場委員

人口が 6000 人台になる事がわかっているのに、今のようやり方では町が維持できない。公共交通も「くるりん号」ですら維持出来ないのに、町内全域をカバーするには限界がある。世羅町の全人口を中心部へ集約するくらいの思い切った計画をしてもよいのではないかとと思う。

#### ■内海委員

世羅町民が世羅町で生活できるというのは一番大切なことだ。だが、周辺部、特に都市計画区域外に住む方からすると、若い人を中心部へ取られ、年寄りばかりが残されている。全町民に関わる計画といえども、この計画が“世羅町に本当に必要なものかどうか”というところから、この専門部会で議論をしてほしい。

(渡邊部会長)

- ・内海委員のご懸念はよくわかるが、世羅町民が尾道や三原など町外に頼らなくても、何とか町内で生活ができる状況を維持する、持続可能なまちをどのようにつくるのかという方向で、考えていくことではないかと感じている。

(廣中委員)

- ・県で、立地適正化計画を所管する部署である。国も人口減少などを契機として、各都市の生活を維持するための支援策等を準備している。
- ・一番大事なのは、町民の総意である。一極集中がよいのか、各地域に拠点を配置して中心拠点と連携するのがよいのか等、今後町をどうしていくのがよいか、しっかりと議論する必要がある。地域住民が支持してくれなければ、計画を作っただけで終わってしまう。場合によっては説明会を開催する等、町民に積極的に意見を投げかけながら進めてほしい。そうでないと計画の実現は難しい。
- ・フルーツや駅伝など、世羅町の魅力を活かして、外から訪れたいと思えるような計画にしてほしい。アンケートは、町民を対象にしているが、これだけを参考データにするのではなく、場合によっては、観光客や外国人等の関係人口の意向も視野に入れ、夢のある計画にすれば、町民もその計画を支持するのではないかと。今後最大限協力させていただく。

【議題2】コンパクト・プラス・ネットワーク型都市構造に向けた現状及び課題について  
事務局から、資料により説明した。

(渡邊部会長)

- ・今日は第1回目で、何かを決める場ではないため、資料について質問や、次回以降に向けていろいろと意見を出してほしい。

(實川委員)

- ・中心部の真ん中を芦田川が流れ、周辺は土砂災害の危険がある。20年以上前から町に対策を要請しているが進んでいない。南側は新築物件も7件ぐらいみられ、避難所等を整備しなければ駄目だ。ハザード情報を知らずに新築しているのだろうが、それも問題である。
- ・交通機関では、貸し切りバスの運転は、以前は免許制だったが、許可制になった。ライドシェアについても近年いろいろと言われており、国も規制を緩和して推進の方向のようだが、自家用車に乗せるというのは、かなり危険ではないかと思う。

(渡邊部会長)

- ・防災については、防災指針の中で今後検討するので、その際、具体的に検討することになると認識している。
- ・ライドシェアについては、確かに課題もあると認識しているが、公共交通計画サイドが検討することになると認識している。今後、自動運転レベル4なども期待されているが、時期が未定であり、人口減少とどっちが先か、という事になると、将来困らないように、この計画としては公共交通を無視することはできないだろう。

(廣中委員)

- ・人口が減少する中で、コンパクト・プラス・ネットワークの将来都市構造等を実現するためには、世羅町では特に観光客をいかに取り込むかも重要である。町内には観光資源が広く分布しているので、観光移動を取り込んだ計画ができないか。車で来れば別だが、外国人などが公共交通をどのように利用しているのかなど分析できないか。道の駅の近くにできたホテルは外国人が多く来ていると聞くが、そういった人たちを町内にどのように周遊させるかとか、そういったものを取り込んで公共交通を考えられないか。
- ・防災のハード整備は、基本的に県の事業になるので、早期整備の必要性等について整理して、県に対して要請してほしい。言い換えれば、この計画を県への要望活動にも使ってほしい。

(實川委員)

- ・移動手段に関して、レンタカーもやっているが、数が少ない。空港からは、各社大手が入っているので、もっとレンタカーなども使っているかもしれない。
- ・観光協会は、花観光中心だったが、中心部には今高野山などの資源もある。しかし、そこから商店街の方まで人が回らないので、商店街がだんだん衰退して駄目になってしまう。

(廣中委員)

- ・外国人観光客は、ネット情報を主な情報源にしているので、情報発信の仕方によっては来てもらえるようになるのではないか。

(藤井委員)

- ・アンケートの回収数が656であるが、この評価はどう考えているか。高校生等の若い人の意見も聞いているのか。

(事務局)

- ・回収率は40数パーセントであり、標準的なところである。対象は18歳以上としている。

(藤井委員)

- ・人口1万5千人の約1割の方に聞いて、その中の4割ぐらいの方しか答えなかったということであるが、例えば今後、アンケート結果をまとめていく上で、自由記述についても分類・整理等をする予定があるか。

(事務局)

- ・自由記述については、キーワード等で分類する予定である。

(廣中委員)

- ・公共交通について考えると、一番利用するのは高校生等の学生世代じゃないかと思う。そのあたりの声を今後反映出来たらよいのではないか。
- ・このアンケート結果のみを検討材料にしないようにしてほしい。総合計画など他の計画でも実施していると思うので、それらのアンケート結果も最大限活用して、観光客のことも含めて分析してほしい。

(渡邊部会長)

- ・公共交通計画の作成時にもアンケート調査をしていると思うので、相互にアンケート結果をうまく使って整理してほしい。

(事務局)

- ・公共交通は、来年度から検討するので、アンケート調査も次年度になる。

(渡邊部会長)

- ・その時は18歳以下も取ったほうがよいのではないかと、といったことも含めて、今回の議論を参考に、検討していただければと思う。
- ・資料5ページに通勤通学移動のデータがあるが、国勢調査で、通勤通学の移動手段もわかるはずなので、整理してほしい。

(玉浦委員)

- ・観光の推進について、商工観光課が計画(観光ビジョン)を策定している。これも踏まえて、連携をとって検討してほしい。問題や課題ばかり指摘されており、その重要性も理解できるが、観光に関わっている人も多いので、住民の理解を促すためにも、そのような視点が必要と思う。

(渡邊部会長)

- ・学生のデータでは、道の駅までは人が来ているが、そこからほとんど出てこない。道の駅からどうやって町内に引っ張り込むかがポイントだ。立地適正化計画の本旨からは外れるが、観光も組み込んでネットワークを作ることが、世羅町では有効ではないか。

(山下委員)

- ・古いデータだが、世羅町は年間120万人の入込観光客があり、これはこの近辺ではかなり多いが、1人当たりの消費額が少ない。この傾向はたぶん今も続いていると思う。

(實川委員)

- ・最近は大いぶ増えた。

(山下委員)

- ・通過型観光になっている。各施設に寄って入場料を落として、次に行く。道の駅から、いかに市街地の方に誘導し、滞在時間を長くして、お金を落としてもらうかが重要である。
- ・本町は農業の町とも言われているが、本町の農業は米が中心で、他のものはなかなかできていない。

道の駅や朝市ができ、近年販売ルートがかなり充実してきたが、担い手が高齢化する中で、この販売ルートの充実がますます重要になる。高齢者は自家消費が多いので、販売ルートに乗せていくという方向性が必要ではないか。

- ・デマンドタクシーを平成16年9月に導入したが、このころは、70～80歳代の人が多くが運転免許証を持っていなかった。その後徐々に免許を持っている高齢者が増えてきて、利用者が減った。デマンドタクシーの先進地である福島県では、元々買い物難民対策として始まったが、1歩進んで、デマンド型の買い物代行なども含めて考えてほしい。

(實川委員)

- ・今はスーパーが移動販売しており、このほうが地域みんなが集まって交流できるので良いという話も聞く。

(渡邊部会長)

- ・そういった状況も踏まえながら、この世羅町の中でどういう風に持続可能な暮らしをしていけるのか、その中であって、一番街中の部分というのはどういう役割を担うべきなのか、といったことを、これから考えていく必要がある。

(久保委員)

- ・資料の5ページでは、周辺の市に通勤通学している人が多いが、中心部に人やサービス機能を集めれば、転出しなくなるのではないか。そういうふうな計画を盛り込んだものを作ってもらえば、公共交通機関もあるし、持続可能なまちになる。

(渡邊部会長)

- ・この図(P5 転出先・転入先)は、よく見ると興味深い。世羅町は広島市、福山市からは転入の方が多く、近隣の三原市、尾道市、府中市には転出が多い。広島市や福山市から来る人が多いということは、規模の大きい都市には無い魅力があり、しかし世羅町民は近隣市に魅力を感じている、など、何かヒントがあるかもしれない。
- ・世羅町らしい立地適正化計画を定めるためには、都市計画だけではなく、視野を広げて検討する必要があるのではないかといった意見を多くいただいた。私も福山、広島など、いろんな都市に携わっているが、やっぱりそこは違う考え方でこの計画を進めていく必要があるのかなというふうに思うので、事務局の方でも今日の意見を踏まえ、検討を進めていただきたい。

## 5. 閉会

※次回は令和6年3月頃の開催を予定している。